

情報連絡員報告総括表（令和5年11月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況						
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化				
製 造 業	食料品	1	3		1	3		2	2		1	3		2	2			4		1	3			4		1	3					
	繊維工業		1	2		2	1	1	2			3			2	1		3			1	2	1	2			1	2				
	木材・木製品			1		1			1				1			1		1				1		1				1				
	紙・紙加工品			2			2		1	1		1	1			2		1	1			2		2			1	1				
	印刷		1			1			1			1			1			1			1			1			1					
	化学・ゴム																															
	窯業・土石製品	1	1	1		3		1	2			3			2	1		3			3			3			2	1				
	鉄鋼・金属		1			1			1			1			1			1			1			1			1					
	一般機器	1	2		1	2		2	1			3			2	1		3			3			3			3					
	電気機器			1			1			1		1				1			1			1		1				1				
	輸送機器		1				1	1			1			1			1					1			1			1				
その他																																
小計		3	10	7	2	13	5	7	11	2	2	16	2	3	10	7	1	17	2	1	12	7	1	18	1	1	12	7				
非 製 造 業	卸売業		2			1	1	1	1			2			1	1		2		X		2			2			2				
	小売業		5	1		5	1	4	2			5	1		4	2		4	2			6			4	2						
	商店街	1			1			1				1		1				1				1		1								
	サービス業		3	1	X	X	X	1	3			4			3	1		3	1			3	1		3	1		3	1			
	建設業		2	2				1	2	1		1	3		1	3		1	3			3	1		4			2	2			
	運輸業		1						1			1			1		1					1			1			1				
	その他		1	1					2			2			2			2				2			2			2			2	
小計		1	14	5	1	6	2	8	11	1		16	4	2	11	7		16	4		19	1	2	13	5							
合計		4	24	12	3	19	7	15	22	3	2	32	6	5	21	14	1	33	6	1	12	7	1	37	2	3	25	12				

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和4年11月～令和5年11月)

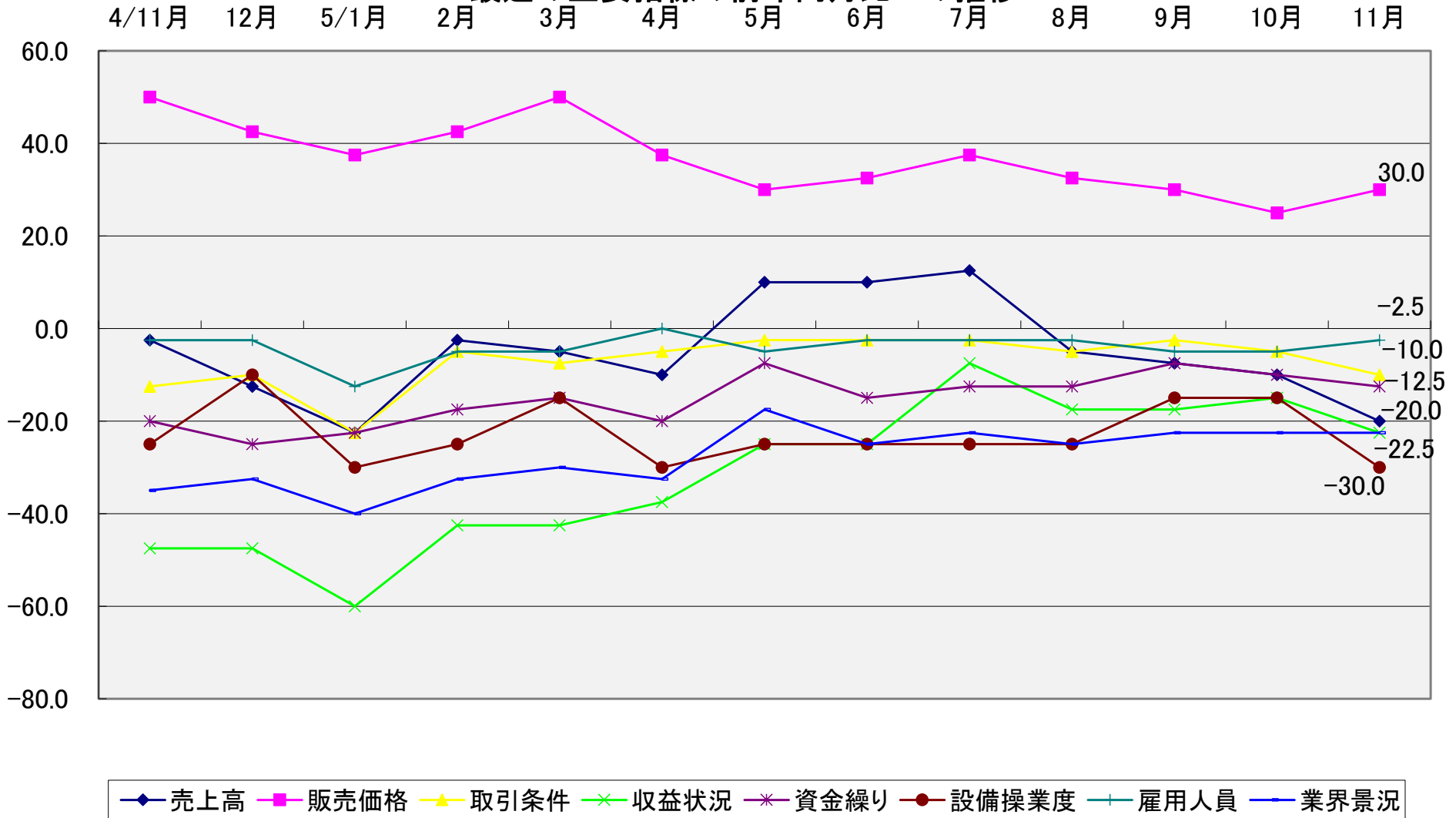
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	4/11月	12月	5/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	増減
売上高	-2.5	-12.5	-22.5	-2.5	-5.0	-10.0	10.0	10.0	12.5	-5.0	-7.5	-10.0	-20.0	-10.0
販売価格	50.0	42.5	37.5	42.5	50.0	37.5	30.0	32.5	37.5	32.5	30.0	25.0	30.0	5.0
取引条件	-12.5	-10.0	-22.5	-5.0	-7.5	-5.0	-2.5	-2.5	-2.5	-5.0	-2.5	-5.0	-10.0	-5.0
収益状況	-47.5	-47.5	-60.0	-42.5	-42.5	-37.5	-25.0	-25.0	-7.5	-17.5	-17.5	-15.0	-22.5	-7.5
資金繰り	-20.0	-25.0	-22.5	-17.5	-15.0	-20.0	-7.5	-15.0	-12.5	-12.5	-7.5	-10.0	-12.5	-2.5
設備操業度	-25.0	-10.0	-30.0	-25.0	-15.0	-30.0	-25.0	-25.0	-25.0	-25.0	-15.0	-15.0	-30.0	-15.0
雇用人員	-2.5	-2.5	-12.5	-5.0	-5.0	0.0	-5.0	-2.5	-2.5	-2.5	-5.0	-5.0	-2.5	2.5
業界景況	-35.0	-32.5	-40.0	-32.5	-30.0	-32.5	-17.5	-25.0	-22.5	-25.0	-22.5	-22.5	-22.5	0.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和5年11月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製 造 業	食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部の事業者の中では漬物原料野菜の供給不足があり、また、ウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により、特に電気代の値上がりが経営を圧迫する状態が続いている。今年の秋野菜の出荷は例年とほぼ同様で、年末に向けての漬物製造が進んでいる。更に12月以降にオンラインで組合員の情報交換会を予定している。
		醤油味噌	気温の高い傾向が続いた秋であったが、気温が一気に下がり冬の気候に近づいた。11月も仕込み量の増加で原料供給が増えた。年末年始を控えて11月後半からは生産がい層活発化してきた。穀物相場は国内飼料ミールが高騰し、南米もブラジルは乾燥傾向にあり、アルゼンチンの大豆不作の影響等でミール生産が悪く、中国が再び米国産ミールの買付けを増やしつつあることから、シカゴミール相場は急騰した。大豆相場も一時は上げ基調だったものの、落ち着きを取り戻している。国の輸出補助事業で来年2月の展示会に参加する企業と2回目の打ち合わせを行った。
		他に分類されない食料品 製造業	11月もコロナ禍ではできなかったいろいろな行事や催し物が復活したり、新たに設けられたりして活気のある月だった。元気な高齢者が多く参加されていた。企業、商店もボランティアで参加する事は良い事だと思う。健康で仲間と集う場があることの必要性を感じた。多くのイベントの中で食中毒が発生したニュースもあり、食品を扱う業者にとっては気を引き締めなければならない。
		製麺	12月2日(土)、3日(日)に香川県高松市にて開催される年明けうどん大会に参加する。今回で10回目の節目を迎え、20店舗が参加し、昨年とは違い入場制限なしで行われるため、多くの方々の参加が見込まれ、コロナ禍前の参加者数を期待している。商品の動きが活発になってきており、今後が楽しみである。また、11月、12月は忙しくなり、業界が少しでも発展していける状況になってきたため、今後が楽しみである。
	木材・木製品	木材	円安、燃料費、輸送費の高騰が依然として経営を圧迫している。
	紙・紙加工品	木材チップ	原材料価格が高止まりしているため、原料の確保が課題である。
		古紙	11月の仕入量：段ボール・約92±5%、新聞、チラシ・約87±5%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約91±4%である。秋が短いのか無くなったのか日本国民にとって大切な四季の変化が奪われたような感じで、冬物の売れ行きは悪く、お歳暮等の消費も控え目のように思われる。10年以上前から古紙集荷量の減少は予測していたものの、国内古紙の販売価格は輸出価格には及ばない中、パルプ高騰と想定より25円ほどの円安にもかかわらず、古紙の国内価格も製品市況もすこぶる安定しているのには違和感が出そうである。ボーナスと運賃や電力、食費等の支払いは出来ているものの、古紙の発生が毎月激減し先行きは不安定だと思われる。サービス業や飲食店等は忙しいところも見受けられるが、それに伴った古紙の発生は見られない。組合員のなかには確実な収益を上げる中、小零細企業もあるようだが為替変動以下の原料価格で全てを賄う国内中心経営の古紙回収卸売業者には恩恵は少ないように思う。年末に向けて事故や火事等のリスクは上がり、ゴミ等の置き去りや古紙、古着の持ち去りの行為も相変わらず経営者の心労もより重く変わらないのは残念である。
		印刷	印刷
	窯業・土石製品	伊賀焼	注文数、来客等については、徐々にコロナ禍前に戻りつつあるように思う。しかし、原料や燃料の高騰に加えて輸入による海外からの原料の入手や今後の見通しが立たないために頭を悩ませている業者が増えてきている。
	鉄鋼・金属	鍍金	業界の生産額は、前月とほぼ変化がない状況であり、当面同様の状況が続く見込みである。ただ今後は、EV関連の動きが徐々に出てくると思われる。
一般機器	四日市市	各企業により濃淡があるが需要、業績は停滞気味である。これまでの半導体不足や紛争の影響の他に急激な円安、あらゆる物価の上昇も響いている。販売価格が上昇できても経費の転嫁のみで人件費上昇分を反映させるのが難しいことと、給与アップでも人が集められない影響もみられる。2024年には景気が上向く予想であるので工業製品の需要増、設備投資につながっていくことを期待したいが、現時点で状況は変わっていない模様である。	
	津市	自動車部品の一部で注文が減り、前月より売上は減少した。売上高は昨年より増加したものの、材料価格の上昇によるもので、同じ単価で計算した場合は昨年並か微増となる。材料以外(光熱費や人件費)の高騰についてはなかなか値上げできず、収支は悪化となった。中国の方ではガソリン車の販売低迷で、トヨタやホンダ等が生産調整や人員削減をしているので、その影響がでてくるのか注視する必要がある。	

報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和5年11月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
	伊勢市	政府等の発表では景気が回復しているとあるが、実際に景気回復してきているのは大企業だけであって、中小零細企業等の末端まで回復しているとは到底思えない。要因の一つは、今まで大企業が下請けに発注していた仕事を社内移管しはじめ、下請け企業の受注が減少し、企業経営が厳しくなってきたと考えられる。
	電気機器	鳥羽市 前月と同様で状況は悪い。期末に向かって受発注が増える事を期待している。
非 製 造 業	青果	野菜前半：高値が続いた反動や生育が遅れていた品目の出荷が上向いたことに加え、後続産地とのリレーも順調で全体的に価格が下がっている。特にほうれん草、白菜、大根が安い。トマト、きゅうり、キャベツ、ブロッコリーも安定して入荷し価格も安くなっている。 野菜後半：全体的に落ち着いているが、冷え込みの影響により、一部の品目で入荷が鈍った。大根、白菜、キャベツ、ブロッコリーは安定して入荷している。白葱、レタスは高値になっている。北海道の玉葱は年末にかけて値上がりしそうである。 果物前半：早生品種のみかんは三重県、和歌山県、愛知県、静岡県等各地とも作況が良く引き合いも強い。長野産の「サンふじ」が美味しく、今が食べ頃である。柿は和歌山県産の出荷が終わり、三重県産、愛知県産の次郎柿がピークでお買い得である。 果物後半：みかんは和歌山、愛知、静岡産ともいづれも甘味と酸味のバランスが良く、価格も今のところ平年並みである。静岡県産、熊本県産のメロンは、贈答用の需要が高まってきている。柿は三重県産、愛知県産の次郎柿が終盤になり、岐阜県産の「富有柿」の入荷が増えてきた。りんごは長野産、の「サンふじ」、「王林」がお買い得である。
	自転車	ウクライナ侵攻が始まった昨年2月からの日米欧とロシアの制裁合戦による物流の混乱もようやく落ち着きを見せ始め、11月は2024年モデルの商品は順調に入荷してきており、各ショップ早期展示を始めた。売れ筋の商品は23年度春需価格据え置きとなり、一安心といったところである。下旬には組合役職員研修会が東京で開催された。テーマは労働紛争を未然に防ぐ社内規程と顧客トラブル対応のコツを学び、2部は事業説明として来期より（一財）自転車産業振興協会が国内販売台数をPOS販売データで集計し、精度の高い販売台数統計データと車種の作成を目指すとしている。今後、協会ホームページで公表する。
	電器	気候の良い秋のシーズンに入り各所ではイベント等が開催され、一時の価格高騰や戦争の話題もあまり聞かなくなったように思う。家電の業界は相変わらず、仕入れを含む値上がりから下がる気配もあまり感じなく、必要とする買い替えの需要があるくらいに思える。月末になると急に気温が寒暖差はあるもの下がってきた。冬の暖房対策で商品が動き始め、地域によって自治体の商品券やメーカーのキャッシュバックキャンペーン等で、やや商品の動きが出てきたように思う。年末に向けて期待したい。
	石油	先般来、公正取引委員会が「令和5年度・給油所の競争状況に関する地域別実態調査地域」に伊勢市を指定した。これは、伊勢地域や周辺において継続してガソリン等の流通における不当廉売が行われてきたことによる。公正取引委員会はガソリン流通市場に関して、ガソリン等販売業における公正な競争を確保するため、「ガソリン等の流通における不当廉売、差別対価等への対応について」を策定するなど、違反行為の未然防止を図るとともに、個別の事案に対しては迅速・厳正に対処してきている。伊勢市が実態調査地域の指定を受けたことから、伊勢市において市内や周辺のガソリンスタンド経営者を対象として、独占禁止法の不当廉売規制を中心とした公正取引委員会の取り組みについて、説明会を行うこととなった。また、説明会の後、懇談会も開催される。
	スポーツ	急に寒くなって秋がなく、冬になった感じである。未だ冬物のスポーツ衣類は売れないと思っていたら、急に需要が出てきて用意するのに大わらわである。前年はコロナ禍の後遺症でメーカーが生産を控えていたため、納品に困ったが今年はそのような事はなく、スムーズに移行しているようである。
サービス業	商店街	熊野市 外国からのお客様がこの時期になり増加傾向である。特に欧米からのお客様が多く、話を聞くと個人または家族、友人等の少数旅行で、長期滞在で各地を回られる方が多く、短くても2週間、長い方で2か月という方もいた。この地方ではやはり熊野古道を目的にされている方が多いようで、数日間かけて熊野古道を歩かれる方が多いようだ。特に三重県側よりも和歌山方面、特に本宮や勝浦は外国人観光客が多く、自治体自体の取り組みも三重県側より積極的と感じる。来年は熊野古道世界遺産登録20周年にあたり、インバウンドを含めた観光集客と需要を県がどう取組むかを注目したい。
	旅館	今までになかった同窓会、サークル等でのグループ、団体、ツアーのお客様が徐々にではあるが始めたことは、コロナ禍前に戻る兆しのように期待しているところであるが、実績はいまいちで対前年比90%、2019年同月比は70%程度のものであった。都市部と有名観光地への集中傾向とインバウンドの取組み不足等、三重県の課題に対して官民共に対策を推進する必要がある。
	警備	コロナ禍も収まり、従来通りの受注に戻ってきた。

報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和5年11月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
建設業	内装工事業	11月は、7月以降の対前年同月比でプラスの流れが止まり、減少となってしまった。年末から年明けは売上がどうなるかは予測が難しいと思われる。
	水道工事業(亀山市)	亀山市の委託業務である量水器の取替業務も完了し、計画数量のとおりであった。漏水委託については発生件数は減少しているが、月に20件程度は発生している。仕事の受注については、各社民間工事がある状況であるが、資材単価の高価が続いており、収益を圧迫している状況は続いている。
運輸業	トラック	軽油価格は先月とほぼ同じ価格帯で推移し、依然高止まり傾向にあることから経営を圧迫している。電子デバイス部門は先月若干持ち直し傾向にあったものの今月に入ってから需要減により減産傾向にあることから関連する輸送も減少した。自動車部門についてはトヨタ自動車、ホンダ技研とも増産体制にあることから、関連する輸送も増加している。スーパー、小売りについては引き続き伸びており、関連する輸送も増加傾向にある。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	他に分類されない食料品 製造業	小さな組合で「日本経済の行方」とか「中小企業経営」は直接役に立てることはないかもしれない。しかし、知ると知らないでは考え方にこの先にヒントが生まれてくるかもしれない。
食料品	製麺	今後の組合の会合については、後日連絡します。 今回のポスターについて、ご対応をありがとうございました。
一般機器	四日市市	工業製品の需要の停滞は2023年内は続く見込みであり、2024年に回復傾向となったとしても、物価の上昇や人手不足が問題になるはずである。政府により中小企業の価格転嫁を促す指針が発表された。引き続き細やかな支援をお願いしたい。
サービス業	旅館	コロナ禍は終わったかのような報道が出ているが、まだまだ終わっていないのが現実である。ほとんどの支援策も今年度末で終わるようであるが、金融支援はもとより、物価高騰対策等の課題は山積している。必要な対策は是非とも継続してもらいたい。